

特集

「病とともに生きる」を援助する クロニックイルネスの視点から

医療の進歩は多くの急性疾患の治療法確立に成功してきました。「不治の病」とされてきた癌や HIV ですら、根治に至らないまでも、従来では考えられない平均余命を生み出すに至っています。しかし、こうした進歩は疾病構造の慢性疾患化をもたらしました。慢性疾患化は、保健医療財政を圧迫すると同時に、現場の医療者にも、新たな治療・ケアのあり方を要求しています。

本特集では、慢性疾患に対する援助のあり方を考えます。「治療」というはっきりした目的を持つ急性期看護とも、「死」を見据えるターミナルとも違う慢性期看護に求められるのは、いわば「中腰」の姿勢。急性期でもターミナルでもない慢性疾患に、看護はいかにかかわるのか。慢性疾患独自の考え方、スキル、立ち位置を探る素材を提供します。

クロニックイルネスの衝撃 黒江ゆり子

健康格差社会における慢性疾患の動向 田中剛

慢性疾患としての HIV ケア 援助者ができること・できないこと 村上未知子

意思決定プロセスを援助するということ 東めぐみ

専門看護師が主導する慢性看護連携システムの構築 米田昭子

セルフヘルプグループと医療専門家 専門家の役割、非専門家の役割

中田智恵海

第1回日本慢性看護学会学術集会を開催して 野並葉子

連載

A-LSD! 病床からの誘惑・8 ——甲谷匡賛・久保田テツ

世界の感受の只中で・8 ——天田城介

看護師のためのセルフコーチング

自分の人生をコントロールするために・9 ——鱸伸子・柳澤厚生

患者・看護師双方のためのアクティビティケア・9 ——六角僚子

見えないものが見えてくる「臨床感染症」とのつきあい方・9 ——今村顕史

HIV/AIDS ケア 再考・9 (最終回) ——島田恵・池田和子

Pipo さんの疾走ダイアリー・9 (最終回) —— Pipo さん

アフリカが紡ぐ命の物語・12 (最終回) ——井上冬彦

悩めることも才能だ! 宮子あずさのお悩み外来・24 (最終回) ——宮子あずさ

看護学雑誌 第71巻第11号 2007年11月1日発行(毎月1回発行)

発行/株式会社医学書院 代表者 金原優

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan

1部定価 1,260円(本体1,200円+税5%) 年ごめ予約購読料 13,200円(税込、送料弊社負担)

・定期購読のお申し込み先/(株)医学書院販売部 TEL 03-3817-5659

・第69巻以前のバックナンバーのご注文先/(株)東亜ブック TEL 03-3985-4701

「看護学雑誌」編集室(担当/鳥居・大野・小田嶋) TEL 03-3817-5772

E-mail kangaku@igaku-shoin.co.jp 医学書院ホームページ http://www.igaku-shoin.co.jp

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS <(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(TEL 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。本誌掲載論文・記事のタイトル頁最下段に記された「0386-9830/07/¥250/論文/JCLS」は、1論文1回複写につき250円を要することを明示したものです。これは表示のない論文等にも適用されます。JCLSへのご連絡の際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご掲示くださるようお願いいたします。

編集後記

●米国大リーグのパイレーツを解雇された桑田真澄投手が、主治医からの「膝を手術しろ。そうすればまだ投げられる」という言葉を受け、現役続行を決意したとのこと。39歳、数度にわたる手術やアスリートとしてのピーク年齢を過ぎてからの世界最高峰の舞台への挑戦。何だか不思議と勇気付けられました。

一方で、近年は若くして競技生活にピリオドを打つ選手も多いですね。金メダルとともに引退したフィギュアの荒川静香選手をはじめ、サッカーの中田英寿選手、水泳のイアン・ソープ選手など。いさぎよさを評価する声もありますが、個人的には早すぎる引退はちょっとさびしい。看護師の早期離職問題が取りざたされる昨今、「辞めずに続ける」ことの魅力についてもっと語られるといいんじゃないかなあ、と思いました。【鳥居】

●「スピリチュアル」というと、どうも世間的には“オーラ”やら“前世”やらが頭に浮かぶようです(苦笑)。心理療法の1つに「前世療法」というのがあるので、マスコミの取り上げ方はそのバリエーションとでもとらえておけばいいのですが、「スピリチュアルケア」を考える時には、脇に置いておいてほしいものです。

患者さんの「魂」にどう接していくのかというの、実は患者さんの「性」にどう接していくのかというテーマとよく似ています。自らの見方が問われると同時に、患者さんにとっての重要度に合わせて対処する必要があるからです。患者さんにとって大事なことは重視して、より満足度を上げる、これも医療者の仕事だと思うのです。【大野】

●車椅子の母を連れ温泉に行ってきました。ホーム暮らしの母へのせめてもの孝行でしたが、宿を見つけるのに難渋しました。バリアフリーの宿はウェブで検索できるのですが、数は限られます。温泉宿は歴史があるところほど和風のつくりが多く、ベッドのある部屋を探すのにも一苦労。また、浴場へは高低差のあるアプローチを設けてあるところが多く、車椅子にはそれもバリアになります。しかし、日本人の温泉好きと、高齢者が今後も増え続けることを考えると、バリアフリー対応の温泉宿への需要は間違いなく増え続けるでしょう。湯に浸かる母の満足そうな表情を見ながら、経営が傾いた温泉旅館を、宿のバリアフリー化を梃子に再建を図る女将をモデルにしたストーリーなどが頭をよぎったのでした。【林田】